倪蔣懷
A Tribute to
Ni Chiang-Huai
紀念展

005 倪蔣懷日記 1929 年

000 倪蔣懷日記 1931 年（陸續上線中）

000 倪蔣懷日記 1938 年（陸續上線中）

000 倪蔣懷日記 1939 年（陸續上線中）

| 倪蔣懷日記 | The Journals of Ni Chiang-Huai

臺北市立美術館
TAIPEI FINE ARTS MUSEUM

倪蔣懷
A Tribute to Ni Chiang-Huai
紀念展

「倪蔣懷日記」爲「懷德樂美：倪蔣懷紀念展」展覽相關之出版，該展自 2025 年 6 月 28 日至 9 月 28 日於臺北市立美術館展出。

發行人｜代理館長劉得堅
日文釋讀｜中央研究院歷史語言研究所助研究員　鈴木惠可
日文釋讀校對｜國立臺灣大學藝術史研究所副教授　邱函妮
｜中央研究院臺灣史研究所博士後研究人員　徐聖凱
執行編輯｜莊慈、何冠緯
美術設計｜胡若涵
數位出版日期｜中華民國 114 年 8 月
發行所｜臺北市立美術館
104227 臺北市中山區中山北路三段 181 號
電話｜（02）2595-7656
版權所有｜臺北市立美術館
文字版權所有｜釋讀者

＊爲尊重智慧財產權，參考使用需標示「釋讀者姓名」

編輯凡例

一、日記原文無標點，爲便於讀者理解特加標點符號。

二、文中日文漢字統一使用「日本新字體漢字」。

三、爲求版面統一，文中內容皆不換行。

四、原文標記刪除的部分（作者因書寫有誤而刪除者），一律刪除。

五、文中「四つ切」、「八つ切」之「つ」，因平假名與片假名之大小字「つ」、「っ」、「ツ」、「ッ」皆有出現，爲方便讀者閱讀，統一使用平假名大字「つ」。

六、文中如有漏字，以【　】補之。

七、文中如有無法辨識的字，以□標示。

八、文中如有錯字，更正於後之〔　〕內。

昭和四年

美術日記

1929

中央美術社出版

1 月

一月一日　火曜　雨
七時五十分で猴硐へ、次の列車で武丹坑へ年始に行って三時帰宅。未出しの年始状及市内廻礼の煩を省いて年始状を出した。

一月二日　水曜　曇
六時半で南投へ写生旅行に石川師を追って行った。清水駅で下車して八つ切を三枚スケッチした。駅長河合氏に遇ひ親切に呼ばれたので一寸いった。八時過南投ホテルに着した。

一月三日　木曜　雨　南投晴
朝食前八つ切一枚スケッチしたがよく出来なかった。先生と一しょに名間へ行って四つ切一枚。南投へ帰って町はづれを八つ切一枚四つ切二枚スケッチした。夜当地の視学及学校の先生に紹介され画を見せたが、傑作のないのを恥しく感じた。

一月四日　金曜　晴
朝食前四つ切一枚。九時頃から先生と一しょに四つ切

一枚スケッチして、十一時三十五分南投を去って隘寮へ行って四つ切二枚スケッチして、六時頃二水について中央ホテルに宿った。石川先生台中へ廻って帰られたので一人で寂しかった。

一月五日　土曜　晴
六時半で集々へ行って四つ切二枚スケッチして、十時過彰化へ行った。中食後四つ切二枚スケッチして、七時頃台中に着いて中和館に宿った。陳植棋氏帰りが遅いので十二時前にやっと会って絵を見せ種々話をした。

一月六日　日曜　晴
五時五十五分で台中を発して大安で下車して、火炎山を四つ切に描いたがきれいすぎて深みが足らない。九時の列車で苗栗へ行って四つ切二枚スケッチした。二時過に新竹へ下ってもう一枚描い［き］たかったが、風はつよし非常を［に］つかれを覚えたのでずっと帰って来た。板橋で真野氏に会った。明日会ふ約束をした。七時前帰宅。

一月七日　月曜　雨
六時半で出北、日の丸館へ真野氏を訪ねに行って画の

批評を乞ふた。後宮から金を受取って、十一時十五分で帰宅。夕方、旅行中スケッチしたのを補筆した。晩、未返事の新賀状を書いた。

一月八日　火曜　雨
十時十分で武丹坑へ支払に行って六時帰宅。夕食後、財産状態を調べた。

一月九日　水曜　晴
午前中は中部旅行のスケッチを補筆し、新高山を記憶に依って描いた。藍君に真野氏の来たのを知らせ出北を勧めた。一時半で猴硐へ行って七時帰宅。

一月十日　木曜　晴
四時二十分の汽車で石底へ行った。早くて寒いから始［初］めてオ【ー】バ【ー】コートを使った。二坑々内を見て坑夫の所得を調べた。用事がすんでから四つ切一枚スケッチした。四時に菁桐坑を発したが三貂嶺で四時五十分の汽車にのりおくれたので、猴硐へ寄って野田氏を訪問して、第一斜坑再掘の件に就いて相談した。九時帰宅。

一月十一日　金曜　晴
朝かきかけた新高山を完成した。九時台車で瑞芳貯炭場へ行って、十一時で武丹坑へ行って、六時帰宅。藍君から返事が来た。出北出来ない事。

一月十二日　土曜　晴
六時二十分家を発して崁脚坑へ向った。金山線の軽鉄に始［初］めて乗っていった。一時間余で瑪鍊について、四つ切一枚スケッチした。気持よくいった。時間の余裕はあるし景色はよいのに紙は一枚しかないので惜しく思った。崁脚へ行く途中瀧口技士に会って方針を聞いた。二時二十分、炭坑を去って四時二十分帰宅した。

一月十三日　日曜　晴
六時半の列車で南港へ行って陳植棋を訪問。其の家から見た景色を四つ切に一枚描いて、十時過の列車で出北、円山へ行って又四つ切一枚スケッチした。晩、石川先生を訪問、描きためた画の批評を願って十時帰宅。

一月十四日　月曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、十一時に武丹坑へ行った。胃病苦しかったので三時帰宅して静養した。梶塚

氏から借金を頼まれた。

一月十五日　火曜　雨
司令部へ検閲に画を持って行った。新に許可証を貰った。

一月十六日　水曜　雨
十時十分で武丹坑へ行って六時帰宅。西村坑に就き川口氏から注意されて、成績の挙がらない事を心配した。

一月十七日　木曜　雨
十時三十五分で出北、兄に案内して貰って漢法［方］医に診察を受けた。円山で四つ切一枚スケッチして五時帰宅。

一月十八日　金曜　曇
早朝から起きて西村坑の結算をやった。三時、真野氏と朝日丸に出て梶川氏を見送った。真野氏来宅、近作を批評して貰った。

一月十九日　土曜　雨
七時五十分で猴硐へ行って、十一時に武丹坑へ行って三時帰宅。気分悪く早くやすんだ。

一月二十日　日曜　晴
六時半で出北、真野氏と淡水へ行ったが、風強かった為め画かずに真野氏の画くのを見たが、感心しなかった。気分悪かったので、早く別れて二時三十八分の列車で帰った。時間前に四つ切一枚スケッチしたが不出来でした。

一月二十一日　月曜　雨
七時五十分で出北、後宮から請負賃を貰って、十二時過帰宅。

一月二十二日　火曜　雨
十時十分で武丹坑へ支払に行って、一時半で猴硐へ行ってから、瑞芳貯炭場へ廻って、運炭を督励して台車で五時半帰宅。

一月二十三日　水曜　雨
脇坂氏の弟保険勧誘に来たので方々へ案内した。晩、

時津氏、尾家氏を訪問して窮状を述べた。

一月二十四日　木曜　雨
七時五十分で猴硐へ行って、貯炭場の作業に就いて小苦力頭を督励した。次の汽車で武丹坑へ行って三時帰宅。六時より新高楼で開く在基国師会定会に出席し、八時から太田氏を訪問して仕事の心配をして貰った。

一月二十五日　金曜　雨
七時五十分で出北、自動車で板橋へ行って梶塚に後援金を渡した。十時五十分で帰北、漢法［方］医に見て貰った。黄東茂事ム所へ借家の交渉をした。一時四十三分で又板橋へ行って、四つ切一枚スケッチしたが、時間少ない為め落付かないので出来が悪るかった。四時帰北、五時四十五分で帰基した。晩、小林氏を訪問、十七坑苦力頭を運動した。

一月二十六日　土曜　曇
正午、基隆炭礦会社から慰労金を貰った。猴硐の方から百二十円、崁脚の方から百円あった。二時四十分で南港へ植棋君の招待を受けに行った。其家を四つ切にスケッチした。八時十分帰宅。

一月二十七日　日曜　雨
七時五十分で出北、陳植棋と一しょに大橋頭を描くつもりでしたが、雨の為めに出来なかった。陳材頭の宅で御馳走になって、三時楊佐三郎を訪問しやうと思っていったが留守なので失望した。真野氏もまだ帰北しないので、四時の汽車で帰宅した。今日はなにもせずに一日をむだに過したのは如何にも残念でした。

一月二十八日　月曜　雨
七時五十分で猴硐へ行く。第三斜坑選炭を完全にするやうに命令す。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。晩、中台商事に行って水選の事に就いて打合せした。

一月二十九日　火曜　雨
九時半で出北、真野様を訪問。展覧会の案内状の手伝をして五時帰宅。

一月三十日　水曜　雨
七時五十分で猴硐へ行って、第三斜坑水選方法を完全にする様指導し、貯炭場旧新年積込に就いて打合せした。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。猴硐貯炭場苦力けんかをして郡役所に引張られたので貰ひにいった。

一月三十一日　木曜　雨
旧正月写生旅行に備ふべく楽みに待った絵具及イエーゼル到着したが、十九号画架脚折れて居るので直ちに取換に出した。十時真野氏来宅、顔家及基隆社へ案内した。五時半で出北、展覧会の手伝をして終列車で帰宅。朝の二時迄眠れなかった。

2 月

二月一日　金曜　雨
猴硐貯炭場ゴタゴタしてゐるので、十時十分で行って三時帰宅。川口氏と一しょに林朝宝の宅で海山炭礦斤先請負の事に就いて打合をした。

二月二日　土曜　雨　寒気厳しい
猴硐積込問題及第三斜坑水選問題の為め、七時五十分で行って十一時帰宅。二時四十分で出北、真野氏の展覧会を見てから陳英声君の宅へ行って、六時から江山楼で後宮合名会社の新年宴会に出席、十時帰宅。

二月三日　日曜　雨
十二時半で出北、漢法［方］医に見て貰って粉薬を貰った。英声君を訪問したのち、真野氏の展覧会場へ行った。石川先生を訪ね山紫水明帖を貰った。研究所設立の件を勧められ社会奉仕の一端として実行すべく決心した。

二月四日　月曜　雨
六時半で顔窗吟等と一行九人で海山炭礦を見に行っ

た。十時帰宅。久振に坑内へ而も急傾斜の所でしたから非常に疲れた。

二月五日　火曜　雨
六時半で出北、黄東茂と借家契約を締結し敷金百五拾円渡した。後宮から請負賃を貰った。呉維金午後来宅、窮状を聞いて同情に堪えないが、自身が苦しいので助ける事が出来ないのは残念でした。

二月六日　水曜　雨
旭橋畔黄東茂の家へ転宅した。

二月七日　木曜　雨
七時五十分で猴硐、武丹坑へ行って、六時帰宅。呉維金来宅、林覚の画を売に来たが価格が高いし経済が苦しいので断って台北の徐大頭に紹介すべき事を約束した。

二月八日　金曜　雨
十二時半で出北、甜粿を脇坂外二名に贈った。五時帰宅。徐大頭に林覚の画をすゝめた。

二月九日　土曜　雨
十二時半で出北。川島理一郎氏の展覧会を見に行った。陳英声君を訪ね、研究所に使ふべき家をさがさした。四時の汽車で猴硐駅へ行った。大晦日になってから積込の苦力仕事をしないので、終列車まで居って善後策を講じた。台北から帰る列車内で陳植棋君に会った。

二月十日　日曜　雨
八時半の急行で南部旅行に出発。車中中村保三に会ひ、新竹から川口氏等三人と合せて一行五人頗る賑か。夜潮州広田館に宿った。中村氏から健康法として諸運動を学んだ。至極簡単で実行容易、共にやって見た。

二月十一日　月曜　南部晴
朝食前八つ切一枚スケッチ。七時五十分貸切自動車で鵝鑾鼻へ向って出発、途中ゴマオホ＊の並林殊に美しかった。楓港□□で八つ切一枚スケッチ。十時半頃恒春に着、四つ切一枚スケッチした。始［初］めて画らしく出来た。十一時半又出発、十二時過鵝鑾鼻に着した。昼弁当をすましてから燈台の上にのぼって見た。八景の一ですが大里に及ばない。八つ切一枚スケッチしたが、光線の具合悪かった。二時に出発、途中船帆石殊に美しく、画興わいたが同行の犠牲になってかけなかったのは残念でした。三時半に四重渓に着、画題

に乏しく失望した。四つ切一枚無理にスケッチした。温泉に入浴、夜公共浴場に宿った。

* 編按：依原文筆跡辨識可能爲「オホ」二字。

二月十二日　火曜　晴

七時五十分出発、帰途に就く。車城を見たが画になる処多く、同行者の為め残念ながらかけなかった。途中海口での処大変よろしく非常にかきたいが又さまたげられた。打鉄で褒忠門を八つ切にスケッチしたが、地平線中央になって面白味薄かった。十一時十分潮州発の列車で高雄に行った。春田館で中食、三時頃写生に出掛けたが逆光線でかゝずに自動車で旧城へ行って、東門を四つ切に半屏山を八つ切にスケッチしたが、八つ切の方却って面白かった。八時半の乗合自動車で高雄へ帰って宿った。他の者夜行で帰北、一人だけになって淋しかった。これから写生には却って都合がいゝ。

二月十三日　水曜　南部曇

七時二十分で旧城へ行って、四つ切一枚スケッチして十時十三分で台南へ行って、大福館で休息、中食後写生に出た。小西門を八つ切一枚四つ切一枚かいたが稍気に入った。夕方東門を四つ切にスケッチした。九時三十一分の夜行で帰基。車中、又中村保三に会った。夕方、台南もバラバラ降りだした。

二月十四日　木曜　雨

七時二十なん分帰基。十時十分で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時帰宅。

二月十五日　金曜　雨

基隆社及び銀行の用をすまして、午后室内から船を見た処をコックス半切に一切かいた。しぶい色が出て面白くいった。十九号画架到着、早速使用して見た。

二月十六日　土曜　雨

在宅、三階大掃除をやって畳を新調した。清潔になって気持よかった。中村保三から南部旅行の謝礼にと浮世絵等の版画をくれた。尚、西式強健術の本を貸してくれた。

二月十七日　日曜　晴

久振に好天気になって何ともいへないよい気分でした。七時五十分で瑞芳へ行って、四つ切一枚スケッチ、十一時に武丹坑へ行って、二時に猴硐へ寄って六時帰宅。

二月十八日　月曜　曇
六時四十分出発、瑪錬へ行って四つ切一枚写生。十二時半崁脚に着、瀧口氏を訪ね、第三斜坑分坑々内を見て三時半帰った。七時半帰着。陳植棋から来信、藍君から出品画又到着。山田氏晩方来訪、第三斜坑選炭方法に就いて指導してくれた。

二月十九日　火曜　晴
七時五十分で西村坑へ行って、水選方法等を研究した。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。晩、許梓桑外三名の祝賀会に出席、来賓答辞の通訳をやった。

二月二十日　水曜　晴
九時半で出北、後宮から金を受取ってから徐大頭の家へ行き、英声君を訪ねて研究所の家を尋ね、夕方石川師を訪問。画の批評を頼み、水彩画会出品画を選んで貰った。七時帰宅。

二月二十一日　木曜　晴
十時十分で武丹坑へ支払に行って三時帰宅。

二月二十二日　金曜　晴
午前出品画を訂正してさいんした。藍君の方をも落款を訂正した。午後一時半で猴硐西村炭坑へ行って六時帰宅。

二月二十三日　土曜　晴
七時五十分で猴硐へ行く。野田氏等のすきなバラの水彩画を持っていった。十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。

二月二十四日　日曜　雨
午前は野口秋香の日本画展を見に行って、葡萄一点を買［売］約した。賛助員と名を出されて仕方なしに出した。午后二時、顔国年氏外三名の答礼宴に顔氏邸園内で招待された。三時半頃すんで山田氏を訪問。第三斜坑の水選の結果よくなった事を聞いて愁眉を開いた。其他炭層の変動と地辷の事に就いて説明をきいた。帰【宅】後障子をはった。半分出来た。水彩画会出品画の荷造をした。

二月二十五日　月曜　雨
日本水彩画会出品画を真野氏に送付した。四点の外に後から更に一点出した。障子を張ってしまってから、

八号二枚のカンバスを張った。芸妓鳳舞の家から見た聖王公廟中々面白く画きたいのでかりる交渉をした。夕方、基隆社の鈴木氏来宅、石川先生の画を見せた。買ひたいといったので持って来て見せたら、いやといふので気持悪かった。

二月二十六日　火曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。

二月二十七日　水曜　晴
国年氏猴硐へ行くので十時十分随行して行った。中食後、西村坑の水選場へ案内した。六時帰宅。晩、小林慶作氏を訪問し、岸壁の仕事の缺点を話した。九時頃、台銀支店長外二名来宅、蔵品の水彩画を見せた。

二月二十八日　木曜　晴
午前は基隆社及銀行の用をすまして、午后から帳簿の整理をした。晩、尚志会に出席、九時過ぎ帰宅。次回の当番幹事に当った。

3 月

三月一日　金曜　曇　晩雨
七時五十分で猴硐へ行った。西村坑出炭不振で心配した。十一時で武丹坑へ行って一時半で川口氏と帰来、小岩氏の見送に出るつもりでしたが例の胃病本日又悪くなったので見合せた。春鳥会、アトリエ社、高橋惟一に転居の知らせを出した。藍君から来信、名付けた大平飴を贈ってくれた。

三月二日　土曜　雨
十二時半で出北、如洋の日本画展を博物館で見た。後宮会社で建物会社から月賦で土地を買ふ件を聞いて申込を頼んだ。

三月三日　日曜　雨
朝、中台へ行って水選改善の打合をした。午后迄西村坑の収支結算をやった。夕方、二公の校長来宅、市尹及自分に一枚宛水彩画を貰って行った。

三月四日　月曜　雨
七時五十分で西村坑へ行って、水洗方法を指導した。

十一時で武丹坑へ行って六時帰宅。石底二坑用のボイラー米満鉄工場に千二百円で請負はす事に決定して来た。藍君へ礼状を出した。

三月五日　火曜　雨
七時五十分で出北、後宮から請負金を貰って三時帰宅。

三月六日　水曜　雨
十時十分で武丹坑へ支払に行って六時帰宅。川口氏から石炭低温乾溜事業の有利な事を聞き、始［初］めたい事を打合した。

三月七日　木曜　晴
午前中は何十字ニ対し聘金詐取の告訴をなすべく草稿をした。午後外出して、応出用の籐製テーブル及椅子を購入し、三階の干物を整理したら、はればれした気持がした。女の躰体美の新研究の書を読みました。

三月八日　金曜　晴
六時半で出北、公館で四つ切一枚写生。十一時頃、富田町の本宅に帰って母の忌辰を祭った。五時帰宅。

三月九日　土曜　晴
七時五十分で出北、猴硐、武丹坑へ行って三時帰宅。倶楽部で如洋画展を見た。半切の山水一枚註文した。

三月十日　日曜　晴
今日は陸軍記念日と同時に自分の炭礦に入った記念日である。大正九年から今日迄満九ヶ年になったが、成功しかけて又失敗してまだ思ふ通にいかないのは感慨無量である。六時半で出北、川口氏を訪問、石底二坑のボイラーに就いて打合をしたが、原案通り解決がついてよかった。円山に人力車で写生に行ったが、途中衝突して覆されてビックリしたが、負傷はなかった。剣潭寺を四つ切に一枚スケッチして、中食後英声君を訪問し、共に公館へ行って、四つ切一枚スケッチした。六時頃石川先生を訪問し、七時十分で帰宅。

三月十一日　月曜　雨
六時半出発、崁脚へ行った。行きがけに瑪錬へ寄って、四つ切一枚スケッチした。瀧口氏に会ひ、分坑請負区域増区に就いて頼んだ。三時に崁脚を出発して六時帰宅。途中、雨降らなかったのはよかった。

三月十二日　火曜　曇
七時五十分で猴硐へ行った。第三斜坑増区の事を野田氏に頼んだが、賛成してくれた。武丹坑へ行ったが、役員は皆留守なので三時に帰宅。水彩展皆一枚宛入選の電報がついたので、それぞれに知らせた。

三月十三日　水曜　晴
川口氏来宅するかも知らぬと思って、午后迄待ってゐた。午后四時二十分で出北、晩石川先生を訪問した後、英声君を訪ね、研究生の研究様子を見て、十時帰宅。

三月十四日　木曜　曇
七時出発、台車で瑞芳貯炭場を経て九坑第三斜坑へ行った。十一時で武丹坑へ行って、三時帰宅。晩、時津氏を訪問、第三斜坑増区を歎願した。

三月十五日　金曜　曇
一時半で猴硐へ行く。貯炭場の係員二人ともやめさせ、新に二人を入れた。古い人は不都合とはいへ、いよいよやめさす事を宣言した時は、殊に同情に堪へなかった。

三月十六日　土曜　晴
七時五十分出発、猴硐及武丹坑へ廻って六時帰宅。晩、昭和採炭会社の披露宴に招待された。

三月十七日　日曜　晴
六時半出北、日英館及石川師の宅へ蔭鼎君をさがしたが、会へなかった。二九年社展を新聞社で、日本美術協会審査員某画伯の個展を博物館で見たが、何れも感心しなかった。十時頃土岡氏を訪問し、記念に石川師及自分筆の水彩画を一点宛贈ったら大喜、中食を饗応された。一時前に蔭鼎君を訪問、四時共に来基。

三月十八日　月曜　晴
六時半、藍君と共に出北、川口氏と板橋へ行き、梶塚氏と三人清水坑へ炭坑見に行く。十二時五十分自動車で帰北、五時四十五分で帰宅。

三月十九日　火曜　曇
十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。晩、松田司令官を訪問、記念に台南迎春門の水彩画を贈った。

三月二十日　水曜　晴
七時五十分で出北、後宮から金を貰って十二時過帰宅。石川先生二時頃来宅、一時帰国するから見送に船へ行った。船内にて参考品集めの事等打合せた。晩、時津氏を訪問、水彩画の絵具及本等を与へて研究を勧めた。

三月二十一日　木曜　晴
十時十分で武丹坑へ支払に行って、一時半の列車で出北、土岡氏送別の宴に出席した。川端町清涼亭でやった。会員二十二名、八時過すんで二次会を萬華新高遊廓でやった。始［初］めて遊廓を見た。終列車で帰宅。

三月二十二日　金曜　晴
午前第二公学校の卒業式に参列した。蘭英の卒業終書を始［初］めて貰ったのを見て、萬感交至った。午后、前要塞副官来訪。

三月二十三日　土曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。

三月二十四日　日曜　晴
朝から所得税調査官吏来宅。九時半、太田元司令部副

官転勤見送に出て、序に出北。博物館で大津氏の油絵展覧会を見たがさほど感心しなかった。新聞社で日本画展を見て、安物を四幅買った。午后、士林へ公学校に於ける洋画展を見て、承藩君を訪問したが留守だったので、台北へ戻って英声君を訪問、四時帰基した。晩、岸田氏を訪問、画の事を話した。

三月二十五日　月曜　晴
午前中台及銀行の用をすまして、午后松田司令官帰国の見送に出た。午過ぎ、陳承藩君来宅、一泊した。晩、何十字に対する告訴状及何闊嘴に内容証明を書いた。承藩君と赤島社展覧会の打合をした。藍君から来信、四月頃第一第二高女の先生になる内定を聞いて自分の様に喜んだ。

三月二十六日　火曜　晴
七時五十分で西村坑へ行って、十一時に武丹坑へ行って、午后又西村坑へ来て、水選方法を研究した。

三月二十七日　水曜　晴
蘭英、基隆女学校の入学試験受けに出たので、見に行った。

三月二十八日　木曜　曇　雨
七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って、一時で又猴硐へ来て、西村坑の水選方法を研究した。

三月二十九日　金曜　雨
九時半出北、後宮会社へ寄って、藍君に頼まれた借家の事を頼んで一軒あるといふので見に行ったが悪かった。方々さがしたところが、蓬莱閣の前にあったが、当分の研究所に最も適当と思って、早速手付を打った。更に其辺の先に新築したものを見出したから、早速藍君に返事した。ひるすぎ、張純甫を訪ね書を頼んだ。先方から画帖を頼まれた。晩、英声を訪問したが、病気だった。葉錬金に会し、辜鴻鳴の経歴を聞いた。適当な研究所用の家を借り得たので、最も愉快だった。

三月三十日　土曜　雨
十時十分で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って、六時帰宅。頭痛がしたので、食後直に就寝、薬をのんだ。姉、久振で台中より来宅。

三月三十一日　日曜　曇
七時五十分出北、白土氏を訪問したが留守だった。

十一時十五分、川口氏等と南港へ炭坑見に行って、五時帰宅。

4 月

四月一日　月曜　雨
十時十分で武丹坑へ行って、西村坑へ廻って六時帰宅。郡司法主任花輪氏の送別会に出席。

四月二日　火曜　曇
野田氏来宅するといふので山へ行かずに在宅したが、こなかった。昨日上山するやうの電話が来た。第三斜坑の帳簿整理をした。夜中、藍君から明日一番でたつ電報がきた。彰銀貸付係作山氏、埔里へ転勤するので挨拶に来た。

四月三日　水曜
* 編按：依家屬意願 4 月 3 日內容不予公開。

四月四日　木曜　晴
八時半元彰銀貸付係の作山氏を見送に駅へ出た。午后一時蘭英の女学校入学式に参列した。四時二十分出北、蔭鼎君を旅館に訪問。仝君を引立てた教育係長、視学に礼に友人としていった。仝君と英声君を見舞いに行った。

四月五日　金曜　晴
早朝、脇坂氏を訪問。鉄道部から新に開放した炭礦の請負を勧め、武丹坑請負賃値上の事を願った。十一時過帰宅。晩、石川先生と植棋から来信、水彩展の批評を知らせてくれた。

四月六日　土曜　晴
後宮氏上京するので九時見送りに出た。十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時瑞芳へ下って駅から運賃を聞いて台車で帰宅。

四月七日　日曜　曇
左足疔出来たので山へ行かずに家で休んだ。真野様から台日水展出品の雨の絵葉書等送って来た。

四月八日　月曜　早朝雨後晴れた
足が痛いので相変わらず山へ行かず、家で休んだ。雨の絵葉書で主な友人等へ転居の知らせや台水展出品の予告をした。午前、姉の肖像を木炭全紙に木炭で描いた。午后、山田闡一氏来訪、売炭に就いて打合あった。

四月九日　火曜　曇
午前、森末太郎一寸来訪。晩、基隆座で日本少女歌劇を見たが、非常に面白いので最後まで居った。

四月十日　水曜　曇後小雨
午前、尚志会の開会の打合があった。晩、高砂楼で第二公学校長の送迎会があった。閉会後、少女歌劇を見に行ったが、前夜と同じ芸題で失望した。

四月十一日　木曜　雨
午後一時から水彩で姉の肖像を描いたが、よく出来なかった。後石膏像のデッサンをやった。

四月十二日　金曜　晴
石川先生帰来、午后一時出迎に行く。二時の臨時列車で帰北。

四月十三日　土曜　晴
七時五十分で出北、ホテルで開会の甘露園後援の美術展覧会を見た。社会事業に後援する意味で色紙一枚、短冊二枚、小品油絵一枚買った。中出氏に会ひ、台湾の美術界の状況を話した。次に新聞社で開会の小早川

秋声の日本画会を見て晴間一枚買った。

四月十四日　日曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、第三斜坑右部増区の件に就て相談した。三時帰基、四時石坂氏夫人の追悼式に出席。晩、尚志会の当番幹事に当ったので出席した。

四月十五日　月曜　晴
午前八時から民事調停室で養女の事件の調べがあった。午后一時四十分で出北、英声氏、石川先生を訪問、研究所開設の準備の打合せをした。石膏像を買求め、十時帰宅。

四月十六日　火曜　晴
台湾水彩画会展出品勧誘の手紙を内地の主なる画家に出した。芸天社に台湾水彩画会の近況を報告した。十時十分武丹坑へ行って六時帰宅。晩、小林慶作氏を訪問し、林朝宝の為に辯解した。

四月十七日　水曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、野田技士に第三斜坑の返事をして、すぐ台北へ出る予定でしたが、四時迄待っ

ても上坑せず、とうとう用を達せずして帰った。

四月十八日　木曜　雨
陳承潘君上京するので見送に出た。学資五十円補助した。洋画自由研究所規則を草案した。午后、猴硐へ行って第三斜坑増区ノ返事ヲシタ。

四月十九日　金曜　曇
十時半で出北、藍君を訪ねてから一しょに英声君、陳清波君及先生を訪問し研究所規則草案を見せた。晩、藍君の家に宿った。

四月二十日　土曜　朝雨後晴
後宮から金を受け、十二時半又藍君の宅に行って休んだ。六時蓬莱閣で石川先生及藍君と晩餐を共にした。先生に研究所に用ふべき家を見せた。十時帰宅。帰りが遅いので父心配して電話で台北へ照会した。杞憂に属するが、親の子を思ふ心は年と共に深くなる。游柏君から来信、南京の写真を数枚送って来た。

四月二十一日　日曜　晴
十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時に猴硐へ廻って水選方法を研究した。六時帰宅。

四月二十二日　月曜　晴
午前は何氏査某の件で調停所出張所へ出た。とうとう四月末日に五十二円、七月末日に五十円、十月末日に百円返還する事に調停された。一時半の列車で瑞芳へ行って貯炭場へ寄って指図をしてから、町を四つ切に一枚スケッチして、台車で帰宅した。

四月二十三日　火曜　晴
早朝から水展入選の画の位置を四つ切に写生したが、よく出来なかった。七時過ぎ高橋惟一氏来訪。午后二時四十分の列車で出北、高橋氏を訪問した後、夕方艋舺のカフヘー［カフェー］へモデルさがしに行きました。

四月二十四日　水曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って武丹坑を廻って、三時帰宅。芸天社に研究所設立の事や藍君の事を投稿した。

四月二十五日　木曜　晴
早朝から白船を一枚描いたが、やや感じがよかった。

朝食後、港口を描いたが不出来。午后二時四十分で出北、マンカへモデル頼みに行ったが応じなかったのに失望したが大正街で快よく応するのがあって、殊にうれしかった。十時帰宅。

四月二十六日　金曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って六時帰宅。呉茂仁君、画会の件で来宅。

四月二十七日　土曜　曇後雨
呉茂仁君を案内して諸名士を訪ねて頼んだが、不成功に終った。一時より二公の保護者役員会議へ出て、四時帰宅。五時半で出北、藍君の宅に宿った。

四月二十八日　日曜　朝雨後晴
朝、脇坂氏を訪問。叭嗹港請負を勧められた。午后、英声君を訪問。研究所開設の打合をした。夕方、石川先生を訪問。研究所規則の修正を受けた。

四月二十九日　月曜　雨
七時五十分猴硐へ行って、十一時武丹坑へ行って、六時帰宅。

四月三十日　火曜　曇
十二時半で出北。研究所開設の準備をなし、英声君を訪ねた後、共に藍君を訪問し、十時帰宅。

5 月

五月一日　水曜　晴
七時十五分出発、崁脚へ行って、五時二十分帰宅。

五月二日　木曜　晴
七時五十分出発、猴硐及武丹坑を廻って六時帰宅。

五月三日　金曜　曇
妻と子供四人で七時五十分出北、北投へ入浴し、午后帰北。陳英声及藍蔭鼎を訪問、七時帰宅。

五月四日　土曜　雨
十時十分武丹坑へ行って、三時帰宅。

五月五日　日曜　雨　台北
七時五十分で出北、楊佐三郎の個展を見た。十二時過英声君と石川先生を訪問後、太田氏を訪問。夕方、藍君と研究所用の椅子買ひに出た。藍君の宅に宿った。

五月六日　月曜　晴　台北
朝、研究所借賃を四十円やった。電灯中止を申込んだ。一時五十分帰宅。晩、時津氏を訪問してから河野様を訪問し、十一時前に帰った。

五月七日　火曜　晴　十、武
十時十分で武丹坑へ支払に行って、二時に猴硐へ寄って、六時帰宅。

五月八日　水曜　台北
十時半で出北、太田氏と共に昼食をやって仝氏の心を聞いた。晩、蔭鼎と蓬莱閣で晩餐をやって、モデルをさがした。藍君の宅にとまった。

五月九日　木曜　雨　崁、武
十時二十分帰宅。油絵を終って、油をかけた。

五月十日　金曜　晴　台北、十、武
七時五十分で大竹氏、河野氏、尾家氏、小林氏を案内して頂双渓を経て武丹坑へ見に行った。六時帰宅。夜、司令部の副官来訪。スケッチ二三点持ってかへった。

五月十一日　土曜　晴　石底
十二時半で出北。藍君英声君三人で江山楼でモデルを頼む。

五月十二日　日曜　晴　台北
午前、藍君の宅の附近で四つ切【一】枚スケッチ。午后、鴛鴦の宅で彼女をスケッチしたが色彩とポーズがよく出来たと思った。八時過帰宅。

五月十三日　月曜　雨　十、武
十時十分で武丹坑へ行って猴硐へ廻って六時帰宅。晩、尾家氏を訪問。十七坑苦力頭等を頼んだ。

五月十四日　火曜　雨
九時半で部下三四人と一しょに叭嘓港炭坑を見に行って、七時帰宅。

五月十五日　水曜　晴　基
十二時半で出北。鴛鴦□□を四つ切にスケッチした。夜、台北に宿った。モデルの裸体を見たがよくなかった。

五月十六日　木曜　曇
台北から九時二十分で叭嘓港へ行って請負の引継をして、五時帰宅。六時から日本亭で台銀支店長の送迎会があるので出た。

五月十七日　金曜　雨
七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って又猴硐へ来て六時帰宅。

五月十八日　土曜　曇
七時五十分で叭嘓港へ行ってから台北へ廻って、例のモデルを三人で午后三時よりスケッチした。晩餐に別の女を呼んだが不合格でした。十時頃帰宅。

五月十九日　日曜　雨
七時五十分出北。台湾水彩画会出品受付をした。午后、石川先生の鑑査を、続ひて点数を決した。八時過帰宅。

五月二十日　月曜　曇
七時五十分で出北、三時帰宅。明治十九年の画を博物館へ持って行った。晩、博愛医院の開業祝賀会に出た。芸妓と写生の約束をした。

五月二十一日　火曜　曇
七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って、六時帰宅。

五月二十二日　水曜　曇後雨
七時五十分で叭嗹港へ行って十二時半で出北。モデルを画く予定だが夕立の為めに暗いのでやめた。水彩画会の発展策として先生に批評をかいて新聞に出すこと及水彩画会賞を与へる事を提出したが、賛成を得て実行に決定した。

五月二十三日　木曜　曇
七時五十分で猴硐を経て武丹坑へ行って三時帰宅。五時半で出北、脇坂氏を訪問したが、留守でした。英声君を訪問、打合をした。日英館に宿った。

五月二十四日　金曜　曇
早朝脇坂氏を訪問。叭嗹港の報告をした。終日博物館で展覧会の準備を殆んだ * 一人でやったので非常に疲れた。八時過帰宅。

* 編按：依原文筆跡辨識可能爲「殆んだ」

五月二十五日　土曜　曇
六時半で出北、展覧会に出た。十二時五十分で叭嗹港へ行って四時半頃帰宅。

五月二十六日　日曜　雨
七時五十分で猴硐へ行って、十時で帰宅。十二時半で出北。水彩画展の片付をしてから陳育奇の開業祝宴に出て、八時四十五分の汽車で帰宅。

五月二十七日　月曜　雨
牧田会長巡視するので七時五十分で猴硐へ行って、六時帰宅。

五月二十八日　火曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って、坑内を見て、六時帰宅。晩、山田氏を訪問した。

五月二十九日　水曜　晴
十時半で出北。後宮会社へ事ム打合に出た。午后モデルをかくつもりでしたが居らなかったので活動を見に行った。夕方、石川先生を訪問。水彩画会の批評をパンフレットにし諸氏の感想を加へる事を相談した。

晩、江山楼で藍君、英声君の慰労会を催した。日英館に宿った。

五月三十日　木曜　晴
早朝、西川氏を訪問、武丹坑値下の免除を願った。塩月氏を訪問、研究所開設に付参考の談をきいた。一時五十分で叭嘘港へ行って、五時帰宅。晩、山田氏来訪。

五月三十一日　金曜　晴
一時半で猴硐へ行って六時帰宅。□及小岩の杓子定規に憤慨した。出品画を返へし返事をした。

6 月

六月一日　土曜　晴
牧田会長の帰京を見送りに行った。九時半で南港へ行って高火炎の祖母の会葬に出た。午后、北投へ行って四つ切一枚スケッチして新薈芳に宿った。

六月二日　日曜　曇
早朝北投から藍君の宅へ来て、十一時十分で帰宅。二時頃植棋君帰台、来訪された。

六月三日　月曜　晴
七時五十分で猴硐へ行ってから武丹坑へ行って、六時帰宅。

六月四日　火曜　晴
七時五十分で叭嘘港へ行って、十二時出北。陳植棋君と午后鴛鴦を描きに行った。晩、江山楼で陳、藍、英声四人で懇親会をやり、七星画壇の解散をやった。終列車で帰宅。つかれ甚しい。

六月五日　水曜　晴
七時五十分出北。後宮から金を貰って、三時帰宅。

六月六日　木曜　晴
十時十分武丹坑へ支払に行った。顔欽賢氏を案内して、坑内を見せた。六時帰宅。

六月七日　金曜　晴　夕立あり
七時五十分で猴硐へ行って、午前は東三坑、午後は第三斜坑へ入って、六時帰宅。久振で入坑、疲労甚しかった。

六月八日　土曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って三時帰宅。五時半で出北。夜、藍君の宅に宿った。

六月九日　日曜　晴　夕立あり
朝、双蓮付近で四つ切一枚、夕方、日清［新］公学校のわきで四つ切一枚スケッチしたが、よく出来なかった。昼過、石川先生を訪問、研究生募集を新聞でやる様に頼んだ。

六月十日　月曜　晴
七時五十分で叭嘓港へ行って、工賃下げの打合をした。附近で六号のスケッチ板に油絵で写生して、七時前帰宅。

六月十一日　火曜　晴
十二時半で出北。ダイヤの指環を主任の礼に買って、四時の汽車で猴硐へ廻って九時帰宅。洋画自由研究所の件夕刊に出た。

六月十二日　水曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って、六時帰宅。晩、国崎氏を訪問、捲上積込機使用の事を頼んだ。

六月十三日　木曜　晴
七時五十分で叭嘓港へ行って、工賃値下げを実行した。十二時出北。陳植棋君と阿勧をモデルにして油絵八号一枚かいた。十時帰宅。

六月十四日　金曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って、六時帰宅。

六月十五日　土曜　晴
十時半で出北。モデルを描く予定でしたが、二人とも都合がわるいので夕方風景を油絵で八号かいた。藍君の家を［で］晩餐、川口氏を訪問し、十時帰宅。

六月十六日　日曜　晴
早朝から昨日の油絵を補筆し、窓から駅を見た所を更に書［描］いた。十時十分武丹坑へ行って三時帰宅。五時英声君久振で来訪、九時帰宅。

六月十七日　月曜　晴
七時五十分で叭嘩港へ行って、正午出北、植棋、蔭鼎両君と午后鴛鴦を描きに行った。八号油絵一枚。植棋君と藍君をひやかしたが、神経質の仝君とうとう心配して始［初］めて怒り出した。夕方、江山楼で円山附近を見て、八号油絵一枚描いた。終列車で帰宅。

六月十八日　火曜　晴
十時十分で武丹坑へ行って、二時に猴硐へ行った。晩、三区事ム所で顔欽賢に招待されて終列車で帰宅。顔氏大変酩酊したので、家迄送って行った。宴会席で自分の為めに憤慨をもらしてくれたので愉快でした。

六月十九日　水曜　晴
七時五十分で叭嘩港へ行って、十二時に出北。藍君を訪ね、一昨日の謝罪をした。お祭を見てクロッキー【し】たいが、大勢で余り暑いので四時で帰宅した。

六月二十日　木曜　晴
七時五十分で出北。後宮から金を受取って、十二時五十分で帰宅。

六月二十一日　金曜
第一斜坑起業費償還の件始末できた。十時十分で武丹坑へ支払に行って、六時帰宅。三時頃から大夕立が来た。

六月二十二日　土曜　晴　夕立あり
十時十分で猴硐へ行って、六時帰宅。第一斜坑愈々廃坑に決定。未だ着炭祝をしない間に廃坑の悲運に遭遇し何となく悲哀を感じた。

六月二十三日　日曜　晴
六時半で南港へ行って陳植棋君を訪ね、共に田舎の景を写生した（八号人体油絵）。午后共に出北。阿勧を

スケッチした。仝大稍出来よかった。終列車で帰宅。研究所の家主頑固な事に憤慨した。相田直彦から謝礼の画、式［色］紙に初夏の景を画き［い］たものが着いた。

六月二十四日　月曜　曇　夕立
十時十分武丹坑へ行って、三時帰宅。相田氏に礼状を出した。

六月二十五日　火曜　晴
七時五十分で叭嘩港へ行って、正午出北。午后植棋君と一しょに鴛鴦をかいて、風景十二号大体だけ出来て仕上げを廿八日にする予定。夜、共楽座で天華を見た。日英館に宿った。

六月二十六日　水曜　晴
七時五十分、妻子供二人を連れて出北。徐大頭の家へ久振に行った。中食後藍君の宅へ行った。八時十分帰宅。

六月二十七日　木曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、十一時で武丹坑へ行って、六時帰宅。川口氏と久振で会った。台炭の件、賛成された。

六月二十八日　金曜　晴
七時五十分で叭嘩港へ行ってから出北した。午后鴛鴦を十二号に描いた。半成。七時帰宅。晩、山田氏を訪問した。

六月二十九日　土曜　晴
七時五十分で出北、研究所設備をやった。晩、石川先生を訪問、研究所の事等を報告した。画帖日本の部を貰った。申込者研究所開始の通知を出した。古賀春江の水彩画（十六切）を買った。

六月三十日　日曜　雨　夕立甚し
七時五十分で猴硐へ行って武丹坑へ廻って五時帰宅。

7 月

七月一日　月曜　晴
十時半で出北、車中で野田氏夫婦に遇し蓬莱閣で中食。午后石膏像を買求めて研究所に備へた。午后五時蓬莱閣に集り、七時から研究所開所の宴会を開いた。集った人、石川先生、植棋、蔭鼎、英声、研究生二人、女番人。記念撮影をして、終列車で帰宅。

七月二日　火曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って武丹坑へ廻って三時帰宅。廣瀬病院へ行って、眼の診察を受けた。

七月三日　水曜　晴
十時半出北。鴛鴦を描いた。晩、研究所で石膏像をかいた。終列車で帰宅。

七月四日　木曜　晴
七時五十分で叭嗹港へ行って正午出北。午后植棋と鴛鴦を描いた。さるまた一枚になってモデルになってくれたのに感心した。晩、研究所に行って十時帰宅。

七月五日　金曜　晴
七時五十分で出北。金を貰って十二時過帰宅。植棋君来宅、郭柏川君内地から帰台。共に晩餐をやって帰った。赤島社展覧会の打合をやった。猴硐三坑瓦斯大爆発。

七月六日　土曜　晴
七時五十分で猴硐へ行って、変災を見舞った。金百円同情して贈った。武丹坑へ支払に行って三時帰宅。

七月七日　日曜　晴
七時前に崁脚に行って、六時帰宅。

七月八日　月曜　晴
朝、銀行へ割引頼みに行った。十時十分武丹坑へ行って、台北へ廻って、研究所へ出て、終列車帰宅。暴風来た。

七月九日　火曜　雨
小暴風雨。終日室内に籠って休んだ。

七月十日　水曜　晴
七時半出発。猴硐、武丹坑へ行って、三時に出北。晩、研究所へ行ってから質屋へ利子入と半分受出した。五六年前の苦しさ思ひ出して感慨無量でした。台北に宿った。

七月十一日　木曜　晴
朝、州へ行って、土地台帳及図面を見た。午后植棋と鴛鴦の半裸体をかいた。晩、研究所へ行って、十時帰宅。

七月十二日　金曜　晴
七時半出発。猴硐、武丹坑へ廻って、三時半帰宅。

七月十三日　土曜　晴
植棋写生にくるので、他処へ行かずに家に居った。午后仝君来宅、共に写生した。十五号の油絵をやった。

七月十四日　日曜　晴
五時四十分で石底二坑へ行って、六時半帰宅。

七月十五日　月曜　晴
十一時二十分で出北。午后鴛鴦を描く予定の処、植棋君遅く来たのでとうとうやめた。研究所へよって十時帰宅。

七月十六日　火曜　晴
七時半で猴硐及武丹坑へ行って、三時半帰宅。

七月十七日　水曜　晴
七時半で叭嗹港へ行って、昼頃出北。植棋と鴛鴦の半裸体をかいた（八号人体）。夜、研究所へ寄って、十時帰宅。

七月十八日　木曜　暴風雨
朝は二十五号の下描をやった。午后は十二号と四つ切の水彩を描いた。夜、非常に疲労を感じて病気かと思った。

七月十九日　金曜　晴
七時半で猴硐へ行ってから武丹坑へ廻って、三時半帰宅。五時二十五分で出北。研究所へ行って、日英館に宿った。

七月二十日　土曜　晴
後宮から金を受取ってから鴛鴦の所へ寄って、クロッキーをやった。一時半の列車で帰宅。

七月二十一日　日曜　晴
七時三十分で猴硐へ行く。第一分坑の請負単価を決定。武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。

七月二十二日　月曜　晴
午前は三十号を描き始め、午后は二十五号を描いた。植棋君前日から来泊、いろいろの話をきいた。

七月二十三日　火曜　晴
十時で猴硐へ行く。国年巡視、共に昼餐をして、炭坑の発達策をきかれた。四時二十分で出北、後宮氏を訪問、煉子寮事業を頼んだ。晩、研究所を見てから藍君の宅に宿った。

七月二十四日　水曜　晴
台北から七時二十分で叭嘓港へ来て、十一時過帰宅。午后、三十号の絵を描いた。

七月二十五日　木曜　晴

七月二十六日　金曜
* 編按：本日無記述。

七月二十七日　土曜
* 編按：本日無記述。

七月二十八日　日曜　晴
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。五時二十五分で出北、脇坂氏を訪問、金瓜石の仕事を頼んだ。晩、石川先生を訪問し、亜細亜ホテルに泊った。

七月二十九日　月曜　晴
七時二十分の列車で叭嘓港へ行って、十時半で出北。植棋と昼食後、藍君を訪問したのち蓄音機を買った。七時十分の列車で帰宅。子供等レコードを聞いていづれも大喜び。

七月三十日　火曜　晴
石川先生上京の序早朝来宅、画を批評して下【さ】った。十時で武丹坑へ行って二時半で出北、横山虎次氏を訪問、田中氏に手紙を出すことを頼んだ。晩、池田氏に招待されて終列車で帰宅。

七月三十一日　水曜　曇
十時の列車で金瓜石に行って、田中清氏に面会、六時帰宅。

8 月

八月一日　木曜
七時半で叭嘓港へ行って、十一時出北。午后、英声と阿勉を描いた（水彩）。稍上出来。十時帰宅。

八月二日　金曜　晴
十時で武丹坑へ行って、三時に猴硐へ廻って、六時半帰宅。顔国年氏に鮫島氏に学資補助を頼んだ。

八月三日　土曜　曇
七時半で五堵へ行って四つ切一枚スケッチ。午后、英声と阿勉の半裸体を描いたが不出来でした。八時過帰宅。

八月四日　日曜　晴
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時帰宅。

八月五日　月曜　晴
七時半出北、金を受けてから一時半の汽車で帰宅。支那曲のレコードを買った。

八月六日　火曜　晴
十時で武丹坑へ支払に行って三時帰宅。頭痛がするので何もしなかった。

八月七日　水曜　晴
七時半で叭嘩港へ行って十一時過出北。午后、植棋と新公園で榕樹を描いた。四つ切水彩。晩餐に宝琴を呼んだが、始［初］めて気に入ったモデルを得たので満足した。十時帰宅。

八月八日　木曜　曇
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時帰宅。

八月九日　金曜　曇
十時で出北。午后、研究所で植棋と阿罔をモデルにして四つ切一枚かいた。十時帰宅。

八月十日　土曜　雨
州調停課の用で七時半で出北。午后、宝琴の家で彼をモデルにして四つ切一枚スケッチした。稍出来がよかった。七時帰宅。

八月十一日　日曜　雨
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

八月十二日　月曜　雨
十一時基隆炭礦から賞与金を貰った。猴硐から六十円、崁脚から百三十円。十二時四十分の列車で出北。三四人の芸者とも差支があるので描けなかった。大きな石膏像到着、研究所へ備へて置いた。

八月十三日　火曜
七時半で猴硐へ行って、武丹坑の杉田前田両氏を案内して坑内採掘を見た。午后三時半帰宅。坑内で頭を少しわって血を流した。

八月十四日　水曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

八月十五日　木曜　晴
十時で出北。午后、英声君と一しょに阿勧を描いた。稍面白く出来た。研究所へ寄って十時帰宅。

八月十六日　金曜　晴
七時半で五堵へ行って一枚（四つ切）スケッチして、叭嗹港へ行って、午后植棋と一しょに出北。降雨の為め光線暗いから写生出来なかった。七時十分で帰北。植棋から艶福話を聞く。

八月十七日　土曜　曇
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

八月十八日　日曜　晴
七時半出発、澳底へ武丹坑の会社員と海水浴に行った。午后一枚、午后一枚 * 水彩を描いて六時半帰宅。

* 編按：原文重複兩次「午后一枚」

八月十九日　月曜
七時半で汐止街へ行って、四つ切一枚スケッチ。十二時過植棋と出北、芸者を描く予定でしたが、非常に暑かったのでやめた。五時頃研究所で楊佐三郎君と三人で展覧会の打合をやった。夜、藍君の宅に宿った。しばらく振で彼の作の進歩したのを見て欣しかった。自分の退歩したのに恥入った。

八月二十日　火曜　晴
十一時十分で帰宅。

八月二十一日　水曜　晴
十時で武丹坑へ支払に入って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

八月二十二日　木曜　晴
七時半で出発、叭嗹港へ行ってから汐止で四つ切一枚スケッチ、午后出北。

八月二十三日　金曜　晴
八時五十五分で出北、炊事婦の件で汐止で［に］行き、三時頃七堵で四つ切一枚スケッチ、六時頃帰宅。

八月二十四日　土曜　晴
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。事業上の不平から頭痛甚しく、なにもしなかった。

八月二十五日　日曜　晴
七時半で五堵へ行って、四つ切一枚スケッチしてから

台北へ出て、午后英声君と宝琴を描いた。

八月二十六日　月曜　晴
七時半出北、赤島社展の準備をした。

八月二十七日　火曜　晴
十時で武丹坑へ行ってから、猴硐へ廻って六時帰宅。兄君愷と主任間の感情衝突を心配した。

八月二十八日　水曜　晴
七時半で叭嗹港へ行って正午出北、赤島社展の準備をした。

八月二十九日　木曜　晴
九時の列車で出北、赤島社展の準備をした。会場博物館の交渉をし直した。晩、江山楼で新聞記者を招待した。十時帰宅。

八月三十日　金曜　晴
七時半で出北、赤島展の準備に行った。昼前同人と共に総督府へ行って、内務、文教両局長を招待した。

八月三十一日　土曜　晴
九時出北、赤島展に出た。午后、藍君を見舞。十時帰宅。

9 月

九月一日　日曜　晴
午后二時、石川先生内地から帰台したので出迎に出た。

九月二日　月曜　晴
十時に武丹坑へ行って、三時猴硐へ来て、晩野田主任を訪問。先の件に就いて諒解を求めた。

九月三日　火曜　晴
七時半で叭嗹港へ行ってから出北、赤島展へ行【っ】て、午后画をかたつけた。晩、カフエークロネコで同人の懇親会をやった。

九月四日　水曜　晴
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

九月五日　木曜　晴
七時半で出北、一時半で帰宅。

九月六日　金曜　晴
十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月七日　土曜　晴
七時半で叭嗹港へ行ってから出北、午后研究所で藍君と一しょに阿罔をスケッチした。始［初］めて全裸体を描いた。コックス紙大。

九月八日　日曜　晴
七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って六時半帰宅。武丹坑請負賃値上を要求したが、川口氏に拒絶された。彼の不道徳を憤慨した。

九月九日　月曜　晴

九月十日　火曜
* 編按：本日無記述。

九月十一日　水曜
* 編按：本日無記述。

九月十二日　木曜

* 編按：本日無記述。

九月十三日　金曜

* 編按：本日無記述。

九月十四日　土曜　晴
七時半で叭嘓港へ行って十一時過出北、十二時四十五分で淡水へ行って、コックス全紙に中学校附近を写生したが、調子がくるって不出来でした。

九月十五日　日曜　晴
七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って三時半帰宅。

九月十六日　月曜　晴
十一時十分で出北、英声君と午后公館へスケッチに行った。曇ったので台北平野を見る所をかゝずに川上を見た所を四つ切に描いた。晩、研究所へ寄って十時帰宅。

九月十七日　火曜　晴
午前は公館のスケッチを大きく（半切）かきのばし、午后石硬港を半切にスケッチした。

九月十八日　水曜　晴
城隍爺祭で親戚等来宅。前日来描きかけの画をしあげた。

九月十九日　木曜　曇後雨
七時半で叭嘓港へ行ってから、台北へ出て公館を写生する予定でしたが、天気あやしいので三時半帰宅して、コックス全紙に雨景を描いた。

九月二十日　金曜　曇
七時半で出北、後宮から金を貰った。法院で□□□の事件の審問があった。

九月二十一日　土曜　晴
陳植棋上京、四つ切四枚半切二枚を託して、岡田先生に批評を仰いだ上、帝展出品を頼んだ。十時武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月二十二日　日曜
七時半で出北。午后、英声君と公館へ写生に行った。四つ切一枚及十号人体の一部をかいた。一時間余自動車を待った為、帰宅おそくなった。

九月二十三日　月曜　晴
七時半で猴硐へ行ってから、武丹坑へ廻って三時半帰宅。車中で二人の女客に会ひ、モデルとしてクロッキーやった。

九月二十四日　火曜　晴
午后一時過、石川先生来基、司令部を写生に行かれた。六時四十分で帰宅せられた。陳承潘に学資金五十円電信為替で送金した。

九月二十五日　水曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。夜、太田氏を訪問した。

九月二十六日　木曜　晴
十一時二十分で出北、医者の診療を受けたらとんだ病気に罹って閉口した。芸術の為になったので残念だった。

九月二十七日　金曜　曇
武丹坑お祭なので、お客を招待した。事ム所の者等二□。六時半帰宅。

九月二十八日　土曜　晴
十二時四十五分で出北、医者に就いた。四時五十分帰宅。

九月二十九日　日曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

九月三十日　月曜　晴
西村坑下請負契約成立したので安神［心］した。午后二時二十分で出北、藍君を訪問した。研究所へ寄って、十時帰宅。

10 月

十月一日　火曜　曇
病気静養。□黄龍上京するので、見送に船へ行った。

十月二日　水曜　晴曇
病気家で休養。午前、妻を連れて福永医院へ診察受けに行った。午后二時二十分で出北。陳植棋来信、岡田先生及吉村先生の評、「田舎臭くな【く】、東京に居る人がかゝれたやうだ。水源地四つ切はすばらしい。意見は小生と一致」との事。

十月三日　木曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月四日　金曜　曇
十二時四十五分で出北、治療を受けてから、第一高女の展覧会を見に行った。研究所へ寄ったが、疲れたので藍君に頼んで七時十時［分］で帰宅。

十月五日　土曜　晴
七時十分の急行で出北、金を受けてから十時二十五分で帰宅。

十月六日　日曜　晴
九時で出北、治療を受けて一時帰宅。

十月七日　月曜　曇
十時で武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。晩、西川純氏来宅、所蔵の画を見せた。

十月八日　火曜　晴
十二時四十五分で出北、治療を受けて、夕方石川先生を訪問。晩、研究所へ寄って十時帰宅。養女を貰った。

十月九日　水曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月十日　木曜　晴
十二時四十五分で出北、治療を受けてから植物園で四つ切一枚描いた。研究所へ寄って、十時帰宅。

十月十一日　金曜　晴
十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。植棋君から来信、岡田先生及吉村先生の批評を知らせてくれた。夜中、電報の来ないのに失望した。

十月十二日　土曜　晴
九時十五分、陳植棋から陳澄波、藍蔭鼎二人帝展入選の電報がついた。自分の努力の足らぬのを恥じて、大に勉強すべき事を悟った。十二時四十五分で出北。晩蓬萊閣で藍君の入選祝賀会を開いた。石川師、英声君を陪賓にし、藍君の母堂と皆五人。植棋氏に落選の慰安及督励の手紙を出した。

十月十三日　日曜　晴
十二時四十五分で出北、植物園で半切一枚描いて七時帰宅。

十月十四日　月曜　晴
十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。石川師の息、滋彦入選したので祝電及御祝金三十円を贈った。

十月十五日　火曜　晴
十二時四十五分で出北、治療を受けた。

十月十六日　水曜　曇
十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十月十七日　木曜　曇
七時半で菁桐坑へ台陽社に招待されて行った。六時帰宅。

十月十八日　金曜　晴
十二時四十五分で出北、永楽座の裏通を半切に描いた。八分通出来た。晩、研究所へ寄って十時帰宅。

十月十九日　土曜　晴
朝、かきかけの半切の水彩に筆を加へた。十一時二十分で出北。午后一時半、第一高女の作法室で藍君の入選祝賀茶話会があったので出席した。親友として祝詞を述べなかったのはもの足りなかった。夕方、前日描きかけの半切に筆を加へた。八時十分帰宅。

十月二十日　日曜　晴
七時半で出北、治療を受けた。

十月二十一日　月曜　晴
七時半出北、後宮から金を貰って十二時十分で帰宅。

十月二十二日　火曜　曇
十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月二十三日　水曜　曇
十二時四十五分で出北、治療を受けた。午后、大稲埕で四つ切一枚スケッチした。

十月二十四日　木曜　曇
七時半で叭嗹港へ行って十一時で出北、治療を受けて、午后植物園で四つ切一枚スケッチした。研究所へ寄って、十時帰宅。

十月二十五日　金曜　曇
七時半で猴硐坑へ行って、武丹坑へ廻って十二時半帰

宅。会社員来宅を待ったが来なかった。

十月二十六日　土曜　曇
十一時二十分で出北、治療を受けてから植物園で四つ切一枚描いたが、木を［が］青過ぎた。八時十分帰宅。

十月二十七日　日曜　晴
午前、家から見た赤き山を主として半切を描いた。山だけ出来た。午后、司令官々邸を十五号の油絵に描いた。雨が降って来たのでかきかけで帰った。

十月二十八日　月曜　晴
午前、昨日描きかけた港の半切に又描いた。船を多く入れた為め主眼点の山が犠牲になった気がする。十一時二十分で出北、二時過から河溝頭で半切一枚描いたが、明るい処が多くて影が少ないのは不満でした。七時帰宅。

十月二十九日　火曜　晴
七時半で叭嗹港へ行ってから出北、午后河溝頭で十二号の水彩カンバスに一枚スケッチした。

十月三十日　水曜　晴
十時で武丹坑へ、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十月三十一日　木曜　晴
十時自動車で出北、治療を受けたから写生に行く予定でしたが、感冒の気分で帰宅した。

11 月

十一月一日　金曜　晴
感冒でねころんた［だ］。

十一月二日　土曜　晴
病気引籠中

十一月三日　日曜　晴
病気引籠中

十一月四日　月曜　晴
感冒稍よくなったので出北、治療を受けた。

十一月五日　火曜　晴
七時半で出北、後宮から金を貰って、午后河溝頭でコックス全紙に一枚スケッチした。

十一月六日　水曜　晴
十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰

宅。野田主任辞表提出した事を聞いて惜しかった。

十一月七日　木曜　晴
九時で出北、夕方石川先生を訪問して出品画の批評を聞いた。陳植棋等に頼まれた画を出品した。

十一月八日　金曜　晴
七時で出北、出品画を訂正したが頭痛はげしくなったので、藍君に搬入を頼んで三時半帰宅。

十一月九日　土曜　雨
病気引籠中

十一月十日　日曜　雨
病気引籠中。九時出北、治療を受けて十二時十分で帰宅。

十一月十一日　月曜　曇
岳母、鰷魚坑へ帰った。十時で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十一月十二日　火曜　曇
朝八時頃、裏通の一点入選した通知を受けたが、恩師の情で入ったと感謝すると同時に恥しく思ひ、大に勉強せざるを得ないと感じた。十一時廿分の汽車で出北、藍君を訪問して七時十分で帰宅。

十一月十三日　水曜　曇
家で静養した。

十一月十四日　木曜　曇
十一時二十分で出北、治療を受けて一時半の汽車で帰宅。

十一月十五日　金曜　曇
十一時二十分で出北、植棋君と台展を見て［に］行った。晩、植棋、蔭鼎両君と石川先生を訪問し、将来大に勉強すべき事を聞されて、七時十分の汽車で帰宅。

十一月十六日　土曜　晴
夕方、赤島社同人陳植棋、蔭鼎、英声、佐三郎、廖継春、李梅樹君来宅、台展を見て感【想】を述べた。九時過、一同帰って行った。

十一月十七日　日曜　晴
七時半で出北、治療を受けてから台展へ行って赤島社同人と台展画の合評会をやるべく、くはしく見た。城内の江山楼支店に集って中食をしてから、一同懇親会をやった。三時半帰宅。大変疲れた。

十一月十八日　月曜　曇
十時の汽車で武丹坑へ行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十一月十九日　火曜　曇
九時の汽車で出北、治療を受けてから新聞社で張純甫主催の支那書画展を見て、安い画二幅求めた。一時半の汽車で帰宅。感冒の気あって夜吐いた。

十一月二十日　水曜　晴
九時の汽車で出北、後宮から金を貰って十二時十分の汽車で帰宅。車中で三回嘔吐した。晩まで数回吐いたので非常に苦しかった。

十一月二十一日　木曜　晴
礼興を武丹坑へ支払にやった。病気床で呻吟した。

十一月二十二日　金曜
病気静養中

十一月二十三日　土曜
病気静養中

十一月二十四日　日曜　雨
病気静養中

十一月二十五日　月曜　晴
感冒稍よくなったが、例の病気あともどりしたので梅野病院へ治療を受けに行ったが、不親切で気持悪かった。夕方、藍君懇に見舞に来てくれた。

十一月二十六日　火曜　晴
久保に診察を受けた。午后、植棋君見舞に来てくれた。気分よかったので画を出して批評を乞ふた。

十一月二十七日　水曜　晴
家で静養。晩七時、四男出生した。

十一月二十八日　木曜　晴
家で静養。

十一月二十九日　金曜　晴
気分よほどよかった。

十一月三十日　土曜　小雨
気分少しわるかった。

12 月

十二月一日　日曜　晴
十二時四十五分で出北、博物【館】で二師の画展及一師での画展を見て、植棋と石川先生を訪問して、八時過帰宅。

十二月二日　月曜　晴
十時で武丹坑へ久振に行って、二時に瑞芳貯炭場へ廻って石炭発送督促をして、六時半帰宅。

十二月三日　火曜　晴
九時で久振で叭嘘港へ行って、正午出北。夕方植棋君と藍君を訪ね、晩研究所へ寄って八時過帰宅。

十二月四日　水曜　晴
九時五十三分で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月五日　木曜　晴
七時半で出北、後宮から金を貰って十二時十分で帰宅。張朝君児童を引率して修学旅行に来たが、時間の

都合で会へなかった。

十二月六日　金曜　晴
十時で武丹坑へ支払に行って、三時半帰宅。

十二月七日　土曜　晴
蔡海涛から台北に来てゐる知らせが来たので、午后会ふべく出北したが、外出して会へなかった。

十二月八日　日曜　曇　雨
十一時二十分で出北、蔡海涛君を訪問。五時艋舺三仙楼で国師同窓会があったので出席した。十時帰宅。

十二月九日　月曜　雨
七時半で猴硐へ行って、武丹坑へ廻って、三時半帰宅。蔡海涛君来遊の約束でしたが、とうとう来なかったので失望した。

十二月十日　火曜　曇　小雨
九時で叭嗹港へ行ってから出北、野田氏を訪問。売炭を頼んだ。夕方、藍君と植棋君三人石川先生を訪問した。晩、研究所へ寄って十時帰宅。

十二月十一日　水曜　雨
家で静養。

十二月十二日　木曜　晴
十時で武丹坑へ行って、三時三十分汽車で台北へ廻って、七時十分で帰宅。御歳暮品を註文した。

十二月十三日　金曜　晴
午后、山田氏売炭の件で来訪。続いて川口氏来宅、進退問題提出準備の話を聞いた。晩、台銀貸付係を訪問、借金を頼んだが銀行の方針として許さぬ事を聞いた。失望した。

十二月十四日　土曜　晴
朝、国年氏を訪問、煥子寮借地料値下を願ったところ、快く承諾してくれた。午后四時前、国年氏の上京を見送りに行ってから出北、辯護士に養女事件の証人に就いて打合せた。七時十分で帰宅。

十二月十五日　日曜

* 編按：本日無記述。

十二月十六日　月曜　晴
十時で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月十七日　火曜　雨
晩、猴硐で三区の忘年会に出席した。

十二月十八日　水曜　晴　曇
九時で叭嗹港へ行ってから出北。

十二月十九日　木曜　晴
午后出北。脇坂、西川両氏に歳暮品及礼を持って行った。

十二月二十日　金曜　晴
七時半で出北、後宮から金を受取って十二時十分で帰宅。

十二月二十一日　土曜　晴
十時で武丹坑へ支払に行って、猴硐へ廻って六時半帰宅。

十二月二十二日　日曜　晴
午后出北、晩藍君を訪問、十時帰宅。川口氏に歳暮及礼を持って行った。

十二月二十三日　月曜　曇
十時で武丹坑へ行って、二時過の列車で帰ったが、猴硐で線路の故障で六時半にやうやく帰宅。

十二月二十四日　火曜

* 編按：本日無記述。

十二月二十五日　水曜　晴
八時五十五分で出北、午后十二時四十五分の台北発列車で石川先生研究所生徒等と士林へ写生に行って、晩研究所で忘年茶話会を開いた。二ヶ月振で画筆を取ったので、手が強って思ふやうに行かなかった。四つ切一点、八つ切二点かいたが、最后の八つ切一点が気に入った。

十二月二十六日　木曜　晴
八時五十分で叭嘓港へ行ってから台北へ出た。晩、窓吟宅へ行って合益の計算をやった。

十二月二十七日　金曜　晴
九時五十三分で武丹坑へ行って、三時半帰宅。

十二月二十八日　土曜　晴
十二時四十五分で出北、治療を受けて四時半帰宅。晩、窓吟宅に行って合益の計算をした。

十二月二十九日　日曜　雨
十二時四十五分出北、午后藍君を訪問、六時帰宅。晩、尚志会の忘年会に出席。大朝新聞社発行の常識講座を四部買った。

十二月三十日　月曜　雨
十時で武丹坑へ行って、忘年会をやって六時半帰宅。

十二月三十一日　火曜　雨
十時出北、田中清に画を贈った。野田を訪問、台湾製

糖売炭の打合をした。三時半帰宅。